

平成27年12月1日
(対象期間：平成27年4月1日～平成27年9月30日)

エコアクション21 環境活動レポート



<本社>

〒420-0905

静岡県静岡市葵区南沼上1471-1

TEL : 054-262-2219

FAX : 054-262-1274

目次

- [1] 組織の概要
- [2] 対象範囲、対象期間、推進組織、役割分担
- [3] 環境方針
- [4] 環境目標
- [5] 環境活動計画（次年度分含む）
- [6] 環境活動計画の取組結果とその評価
- [7] 環境目標の達成状況(実績)
- [8] 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
- [9] 環境上の緊急事態への準備及び対応
- [10] 代表者による全体評価と見直し
- [11] 環境への取り組み

[1] 組織の概要

- (1) 会社名 株式会社飛鳥ハウジング
- (2) 代表者名 代表取締役社長 鍋田 安伸
- (3) 所在地 本 社：〒420-0905 静岡県静岡市葵区南沼上1471-1
- (4) 設立日 昭和48年7月12日
- (5) 資本金 1,000万円
- (6) 事業内容 ①土木建築工事の施工及び請負
②建築設計及び施工
③リフォーム工事

(7) 事業規模

	単位	H25/3月	H26/3月	H27/3月
売上高	百万円	444	485	479
工事件数	件	116	112	97
従業員数	人	22	22	22

(8) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者兼事務局 専務取締役 鍋田 富彦
連絡先 TEL:054-262-2219 FAX:054-262-1274

(9) 許可の内容 静岡県知事許可 般-24第24972号

(10) 保有機材

	車種	台数		車種	台数
1	4tダンプ車	1台	2	2tダンプ車	3台
3	3.5ユニック車	1台	4	軽トラック車	2台
5	軽バン車	4台	6	営業車	1台
7	0.15m ³ ユンボ	1台	8	0.2m ³ ユンボ	1台

[2]対象範囲、対象期間、推進組織、役割分担

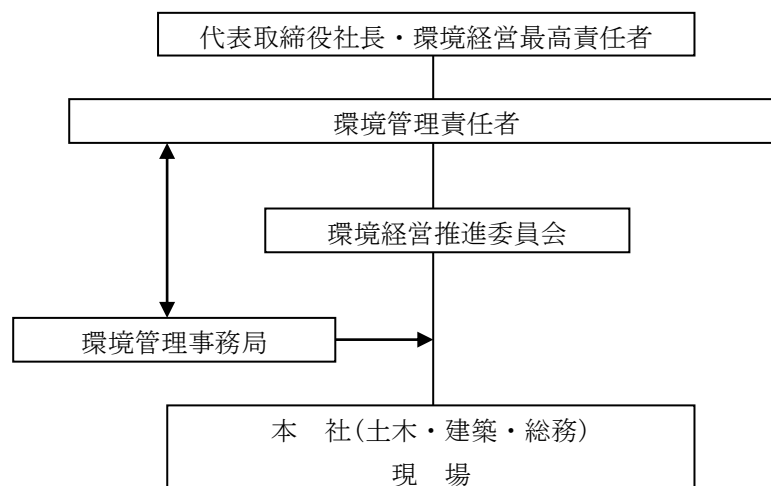
(1) 対象範囲

- ①適用する事業所 ・ 本社(土木・建築・総務) ・ 施工現場
- ②適用構成員 ・ 当社役員、従業員(派遣社員、パート含む)

(2) レポート対象期間

平成27年4月1日から平成27年9月30日

(3) 推進組織



(4) 役割分担

最高責任者 (社長)	環境マネジメントを計画的に実施するための内容を確認、決定する。 ① 管理責任者をはじめ必要な責任者を任命する。 ② システムの構築・運用・維持に必要な経営諸資源を準備する。 ③ 基本理念・基本方針を制定し基本的な環境目標を設定する。 ④ システムの構築・運用に関する情報を収集し、システム全体の見直しを行い、必要あれば改定を指示する。
環境管理責任者	環境マネジメントシステムの推進・維持をする。 ① 経営資源の合理的・効果的な運用を図り、環境経営に関する委員会組織(推進委員会)を運営する。 ② 最高責任者による見直しのための情報として、システムの構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
推進委員会	環境管理責任者を委員長として(随時)実施する。 ・各GLで構成し環境マネジメントシステム及び環境改善に関する会議を実施する。
事務局	・環境管理責任者を全面的に補佐する。

株式会社飛鳥ハウジング 環境方針

基本理念

株式会社飛鳥ハウジングは、大和ハウスグループ協力施工店とし、「人・街・暮らしの価値共創企業」として、未来を見据えた環境思考に努め、より環境に配慮した商品・サービスの提供を通じて、環境と共生し人が心豊かに生きる社会の実現を目指します。

行動指針

当社は、すべての事業活動が環境に何らかの影響を与えていることを認識した上で、以下の環境保全活動を推進します。


1. 私たちは住宅施工現場において、常に「安全」と「環境に配慮した施工」を提供します。
2. 私たちは環境負荷低減に寄与する技術向上を考え続けます。
3. 私たちはすべての事業活動で環境への影響を把握し、継続的に改善することによって環境負荷の低減に努めます。
4. 環境関連法令と当社が参加した協定等を遵守することはもとより、可能であれば、自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
5. 次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、必要あれば目標を見直すなどの効果的な取組みを行います。
 - (1)「環境への負荷チェック」の結果、著しい項目に対する改善目標管理。特に燃料使用量については、車両別の燃費を向上させます。
 - (2)住宅施工現場から排出する廃棄物については、5R活動に取り組んでいきます。
 - (3)電力使用量については使用量を把握し、節電に努め、効率的な使用を実施します。
 - (4)グリーン購入を積極的に推進します。
 - (5)品質管理の徹底が環境経営に資するという考えのもと、クレーム対応に対しては誠意をもって取り組み、顧客満足度を向上させていきます。
6. 環境保全関連の行政機関・団体などの環境保全施策に協力し、社会貢献活動を推進します。
7. 環境教育・訓練、社内広報活動の実施により、全ての構成員に環境方針を周知徹底すると共に、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。
8. この環境方針は、社外の人にも公開します。

平成27年4月1日制定
株式会社飛鳥ハウジング
代表取締役社長 鍋田安伸

[4]環境目標

なお、当社の中長期の環境目標は以下の通りである。

	No.	テーマ	単年度別目標 (27/4月～30/3月)
原則とする目標	1	二酸化炭素 排出量の 削減	① 平成27年4月～9月は、平成26年4月～9月実績対比1%削減させる。 ② 平成27年度は、平成26年度実績対比1%削減させる。 ③ 平成28年度は、平成26年度実績対比2%削減させる。 ④ 平成29年度は、平成26年度実績対比3%削減させる。 ※工事件数単位の排出量で比較をする。
	1 A	電力使用量 の削減	① 平成27年4月～9月は、平成26年4月～9月実績対比1%削減させる。 ② 平成27年度は、平成26年度実績対比1%削減させる。 ③ 平成28年度は、平成26年度実績対比2%削減させる。 ④ 平成29年度は、平成26年度実績対比3%削減させる。 ※工事件数単位の排出量で比較をする。
	1 B	燃料使用量 の削減	① 平成27年4月～9月は、車両別燃費を把握する資料を作成する。 ② 平成27年度は、車両別(重機以外)の燃費把握を開始する。 ③ 平成28年度は、全車両の平均燃費を平成27年度比1km/l向上させる。 ④ 平成29年度は、全車両の平均燃費を平成27年度比2km/l向上させる。
	2	廃棄物 排出量削減	<u>住宅施工現場から排出する廃棄物の5R活動に取り組む。</u> ※業務内容および業務量に伴って増減するため削減目標は立てない。
	3	総排水量 削減	<u>当社の水使用量については、使用量が家庭レベル以下であるため、使用量を把握し、節水に努めるものの、削減目標は立てない。</u>
	4	化学物質使 用量削減	<u>当社で使用する化学物質に「P R T R法」に該当するものはごく少量のものを除いてほとんどないため、使用量のみを把握する。</u>
	5	グリーン 購入比率の 向上	<u>当社ではグリーン購入法で定められた製品を積極的に購入する。</u> 数値目標は定めない。
経営上の目標	6	苦情・事故 の削減	① 平成27年4月～9月は、過去の苦情事故の件数・内容を分析する。 ② 平成27年度は、苦情・事故の件数および内容を把握する。 ③ 平成28年度は、平成27年度比1件削減させる。 ④ 平成29年度は、平成27年度比2件削減させる。

6	苦情・事故 の削減 (鍋田)	【業務課】【管理課】 <ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談の徹底 ・事故・クレームデータの収集 ・過去の事故・クレームリストの作成 ・要員分析、対策立案、責任者評価、有効性 検証 ・事故・クレーム会議での情報交換 	「事故・クレーム」件数集計・定期的に会議を実施 
---	----------------------	--	--

※次年度も上記と同様の計画で実施します。

[6]環境活動計画の取組結果とその評価

平成27年度										
環境活動計画	推進担当者	実施者		4・5 月	6・7 月	8・9 月	10・11 月	12・1 月	2・3 月	次年度の取組
①電気使用量の削減【維持管理】										
・使用していない機器の電源オフ	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
・不要な照明の消灯	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
・適正な室温(夏季:28℃±1℃冬季:20℃±1℃)の維持	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
②ガソリン・軽油使用量の削減										
・エコドライブの徹底	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
・不必要なアイドリングの禁止	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
・不要な荷物を乗せない	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
・急発進・急加速の禁止	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
・計画的・効率的な走行ルートの設定	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
・タイヤの空気圧のチェック	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
③廃棄物排出量の削減【維持管理】										
・規定の分別方法の遵守	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
・産業廃棄物置場の表示徹底	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
・マニフェスト管理の徹底	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
・両面印刷の活用	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
・再生封筒・用紙の活用	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
④総排水量の削減【維持管理】										
・不必要な水の垂れ流しの防止	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
・水道配管からの漏水防止	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	◎	◎	◎	△	△		
⑤化学物質使用量の削減【維持管理】										
・在庫管理の徹底	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
⑥グリーン購入比率の向上										
・「グリーン購入リスト」の作成	細田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
・情報収集の継続的实施	細田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
⑦苦情・事故の削減										
・過去の苦情・事故の件数・内容を分析	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
・経営品質向上・労働安全会議の実施	鍋田	全社員	計画	●	●	●	●	●	●	継続
			実績	○	○	○	△	△		
※次年度以降の計画も同様とする。										

[7]環境目標の達成状況(実績)

過去3年間の比較		24年度 24/4月～ 25/3月	25年度 25/4月～ 26/3月	26年度 26/4月～ 27/3月	25年度対比	達成 状況
工事件数	件数(件/年)	不明	112	97	▲15件	
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂ /年)	不明	59,163	58,292	▲1.5%	
二酸化炭素排出量	原単位(kg-CO ₂ /年)	不明	528.24	600.94	+13.7%	
<電気使用量>	量(Kwh/年)	不明	14,206	12,718	▲10.5%	
<電気使用量>	原単位(Kwh/年)	不明	126.83	131.11	+3.3%	
<灯油>	量(L/年)	不明	37	54	+45.9%	
<LPG>	量(kg/年)	不明	43.3	48.6	+12.2%	
<ガソリン使用量>	量(L/年)	不明	10,441	11,750	+12.5%	
<ガソリン使用量>	原単位(L/年)	不明	93.22	121.13	+29.9%	
<軽油使用量>	量(L/年)	不明	10,532	9,302	▲11.7%	
<軽油使用量>	原単位(L/年)	不明	94.03	95.89	+1.9%	
一般廃棄物排出量	総量(kg/年)	不明	560	506	▲9.7%	
廃棄物排出量	総量(kg/年)	不明	63,975	27,239	▲57.5%	
総排水量	総量(m ³ /年)	不明	131	117	▲10.7%	
化学物質使用量	総量(kg/年)	不明	176.75	180.15	+1.9%	
グリーン購入	比率(製品/年)	—	—	—	—	
事故・クレーム	件数(件/年)	—	—	—	—	

※購入電力の排出係数:0.497を使用 ※達成状況は環境目標(P6)に対する達成状況を記載

6か月間の比較		25年度 25/4月～ 25/9月	26年度 26/4月～ 26/9月	27年度 27/4月～ 27/9月	26年度対比	達成 状況
工事件数	件数(件/年)	49	47	49	▲+2件	
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂ /6ヶ月)	28,970	28,047	31,423	+12.0%	
二酸化炭素排出量	原単位(kg-CO ₂ /6ヶ月)	591.22	596.74	641.28	+7.4%	×
<電気使用量>	量(Kwh/6ヶ月)	6,867	5,941	5,492	▲7.6%	
<電気使用量>	原単位(Kwh/6ヶ月)	140.14	126.40	112.08	▲11.4%	○
<LPG>	量(kg/6ヶ月)	19.7	23.6	23.8	+0.8%	
<ガソリン使用量>	量(L/6ヶ月)	5,003	6,093	6,656	+9.2%	
<ガソリン使用量>	原単位(L/6ヶ月)	102.10	129.63	135.83	+4.7%	○
<軽油使用量>	量(L/6ヶ月)	5,290	4,145	5,018	+21.0%	
<軽油使用量>	原単位(L/6ヶ月)	107.95	88.19	102.40	+16.1%	○
一般廃棄物排出量	総量(kg/6ヶ月)	280	255	245	▲4.0%	○
廃棄物排出量	総量(kg/6ヶ月)	59,520	12,919	16,601	+28.5%	○
総排水量	総量(m ³ /6ヶ月)	65	56	65	+16.0%	○
化学物質使用量	総量(kg/6ヶ月)	88	91.65	85.25	▲7.0%	○
グリーン購入	比率(製品/6ヶ月)	—	—	リスト作成	—	○
事故・クレーム	件数(件/6ヶ月)	—	—	内容分析	—	○

※購入電力の排出係数:0.497を使用 ※達成状況は環境目標(P6)に対する達成状況を記載

【6か月間の比較】

(1) 二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出量の削減については、平成26年対比1%の削減(工事件数対比で比較、以下同)の目標を立てたが、結果は+7.4%増加した。この要因は電気使用量が▲11.4%削減(同)したものの、ガソリン使用量が+4.7%増加、軽油使用量が+16.1%増加したことによる。

- ① 電気については、現場で仮設電気を使用するときや事務所内で、従業員の節電意識が高まったことが大きい。
- ② ガソリン使用量については、平成27年4月より従業員を1名および車両を1台増加したことから使用量が増加した。
- ③ 軽油使用量については、平成27年度は残土処理を必要とする現場が多く、残土を運搬するためダンプ車の稼働率が向上したことが大きい。

(2) 一般廃棄物排出量

エコアクション21の活動開始後、5Rに取り組んだことで実績は▲4.0%減少した。

(3) 廃棄物排出量

業務量増加に伴い、産業廃棄物の実績は+28.5%であった。

(4) 総排水量

洗車時の節水を従業員に徹底した。

(5) 化学物質使用量

MSDS一覧表を作成した。引き続き在庫管理の徹底を継続して行っていく。

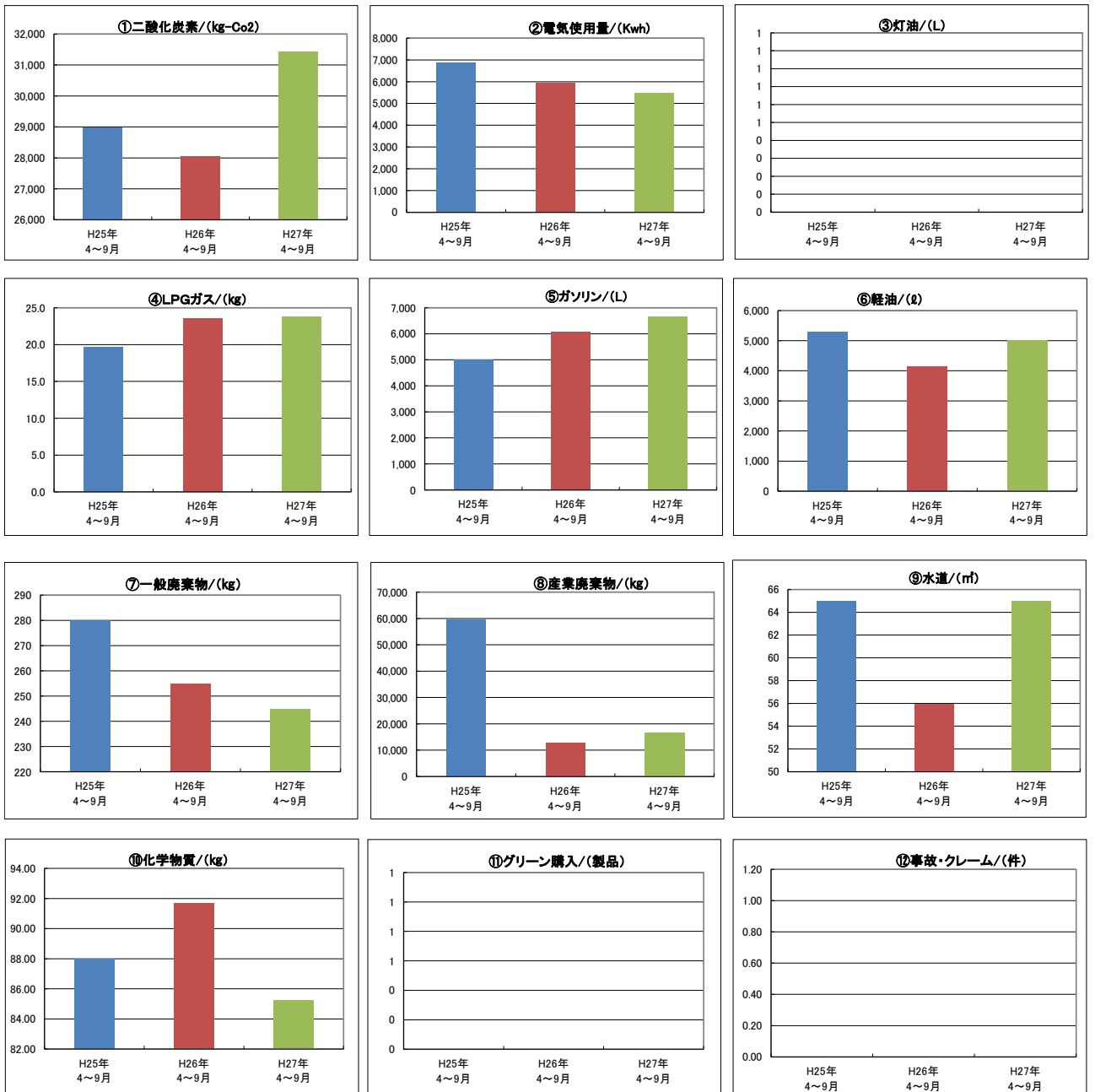
(6) グリーン購入

購入リストの作成をした。

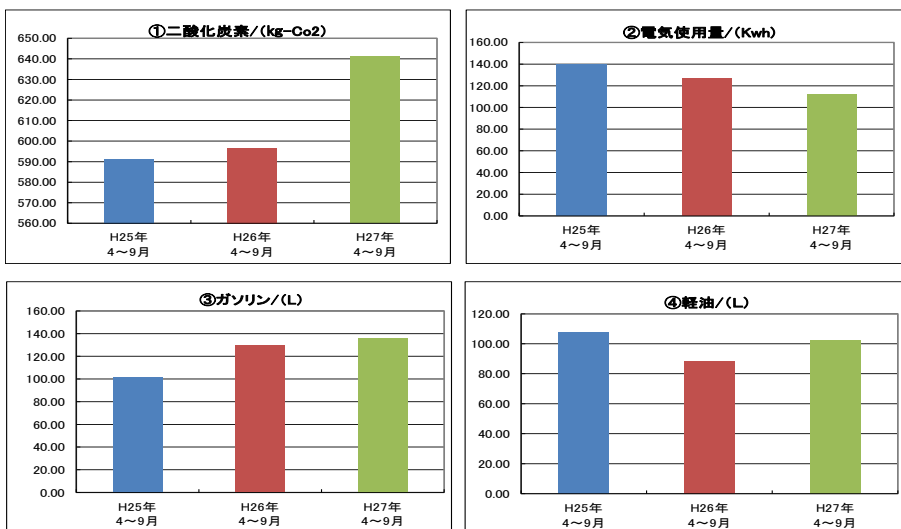
(7) 事故・クレーム削減

事故・クレーム報告書のひな形を作成し、過去の件数・内容の分析を実施した。

< 6 か月間の総量比較 >



< 6 か月間の原単位比較 >



[8]環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1)環境関連法規制の遵守・訴訟等の有無

環境関連法規制の遵守状況を確認した結果、違反はなかった。また、関係機関等から特に指摘等もなかった。くわえて訴訟等も同様に1件も無かった。

(2)当社が適用される主な環境関連法規制等

【主な環境法規制等一覧表】

名称	当社の現状	要求事項	対応状況
建設リサイクル法	特定建設資材の使用工事	対象建設工事における分別解体等の実施義務	対応済み
騒音規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	エアコン室外機3台 (0.65kw 1.4kw 2.1kw)	①使用開始・設置の届出 ②利用基準の遵守	届出対象外
振動規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	エアコン室外機3台 (0.65kw 1.4kw 2.1kw)	①使用開始・設置の届出 ②利用基準の遵守	届出対象外
廃棄物の処理および清掃に関する法律(廃棄物処理法)	外部業者への委託	①産廃業者等との委託契約書締結 ②廃棄物置場の適正保管(表示看板設置) ③マニフェストの発行・返却・保管 ④マニフェストの行政報告(年1回) ⑤収集運搬車のステッカーの表示	対応済み
浄化槽法	10人槽	① 設置の届出 ② 法定検査(11条) ③ 保守点検 ④ 定期清掃	対応済み
自動車リサイクル法	所有自動車: 11台	①リサイクル料金支払い	対応済み
グリーン購入法	購買品の一部で実施	①できる限り、環境物品等を選択するよう努める	対応済み

[9]環境上の緊急事態への準備及び対応

通常の火災・地震以外に想定されるものはない。

[10]代表者による全体評価と見直し

見直し日:平成27年10月1日

- (1) ヒアリングチェック・内部監査の結果・法令順守
エコアクション21の構築・運用状況は、おおむね良好である。
当社では内部監査は実施していない。
- (2) 苦情を含む利害関係者からの重要な情報
苦情を含む利害関係者からの重要な情報はない。
- (3) 組織の環境パフォーマンス
組織の環境パフォーマンスはおおむね良好。
社員の環境への取組み状況は、パトロールチェック結果より良好と判断。
- (4) 環境目標の達成
ガソリンおよび軽油使用量が大幅に増加し、当該要因から二酸化炭素使用量も増加した。
産業廃棄物量も大幅に増加した。
- (5) 問題点の是正処置および予防処置の状況
問題点の是正処置および予防処置はない。
- (6) 前回までの見直しの結果に対するフォローアップ
代表者による見直しは、今回が初めてであり、前回に対するフォローアップはない。
- (7) 環境関連法規等を含む周囲の状況の変化
環境関連法規等の制定・改正・廃止はない。周囲の状況変化も特にない。
- (8) 改善のための提案・その他
改善のための提案も特にない。

【見直し事項の有無】

項目	確認	コメント
1. エコアクション21文書類	■	特段の見直しをする必要はない。
2. 環境目標・計画	■	特段の見直しをする必要はない。
3. 環境活動計画	■	特段の見直しをする必要はない。
4. 組織体制	■	特段の見直しをする必要はない。
5. 環境経営システム	■	特段の見直しをする必要はない。
6. その他	■	特になし。

【トップマネジメントによる確認・指示】

①ガソリンおよび軽油使用量の増加要因は、平成27年度の残土処理を必要とする現場が多くダンプ車の稼働が多かったことによる。

②産業廃棄物量は、業務内容により増減することが分かった。

上記①については、従業員全員にエコドライブの再徹底を指示した。

上記②については、従業員全員に5R活動の再徹底を指示した。

環境目標の達成は、コストダウンや業務レベルの向上につながるため、全社員が一丸になって取り組むよう指示をした。

[11]環境への取り組み

私たちは施工現場近隣の掃除を必ず実施しております。

